

概 要

【研究背景】

近年、コミュニケーション能力の向上に情動知能(以下EQ)が注目され、教育現場などで学生を対象とした研究が増えている。1)

情動知能とは自己や他者の感情を知覚し、また自分の感情をコントロールする知能と定義され、チーム医療に必要と考える。

【研究目的】

看護・介護職者の協同作業とEQの関連を調査する。

【研究方法】

- 1, デザイン：実態調査研究
- 2, 対象：A病院に勤務している看護・介護職員計100名のうち同意が取れた46名
- 3, データ収集期間：2018年7月1日～9月30日
- 4, 調査項目
 - 1) 属性①出身地、②性別、③年齢、④職種、⑤最終学歴、⑥兄弟の有無、⑦経験年数、⑧アルバイトの有無、⑨スポーツやボランティア経験の有無
 - 2) 情動知能指数(以下EQS)
3対応領域、9因子、21下位因子、計65問
 - 3) 協同作業認識尺度
3項目、計18問
- 5, 分析方法
対応のないt検定、 χ^2 検定、Munn-Whitney検定を用い、有意水準 $P < 0.05$
- 6, 倫理的配慮
院内の倫理委員会にて承諾を得た。また、協同作業認識尺度の使用を長濱に承諾を得た。

【結果】

EQSの高い人は低い人に比し、有意に協同効用が高く(平均値38.5、SD5.3)、互恵懸念が低かった。(平均値4.4、SD2.0)

EQSと属性別においてEQSが高い人(平均順位20.4)は専門職が多く、最終学歴が高かった(平均順位26.0)

【考察】

EQが高い人は自己の感情を理解し相手の感情を読み取る能力と、共感し協同する能力がある3)と報告されていることから、EQSが高い人は協同作業に優れているため、協同効用が高いと推測される。EQSが高い人の互恵懸念が低いのは、協同することが効果的と認識しているためと推測される。EQSと属性別においてEQSが高い人は専門職が多く、最終学歴が高かった。専門職者は教育の中で、チームでの活動が多いため、EQが高いと推測される。経験年数が長い看護師のEQが高いと研究結果があるように2)臨床現場での協同作業がEQを向上させていると考える。EQの高い人は協同作業をする力が高いことが示唆された。

【結論】

・EQSと協同作業認識尺度においてEQが高い人は低い人に比し有意に協同効用が高く、互恵懸念が低かった。

・EQSが高い人の属性別調査では職種、最終学歴においてEQSの低い人より専門職、高学歴が多かった。

【引用参考文献】

- 1橋本由里：協同作業認識と情動知能との関連性について—教育場面への応用可能性、2016
- 2大坪奈保：総合病院に勤務する看護職者の情動知能の実態、2017
- 3ダニエル・ゴールマン：EQこころの知能指数 土屋京子訳、講談社、1995